



第1回 歩こう会のスタートの地、秋葉原の旧飯田藩上屋敷跡。ここがすべての出発点となった（前列中央が牧内氏）

# 「われら同志会」 「飯田ゆかりの地を歩こう会」 はこうして始まった

下島 明 (高19回)

10年以上も前の在京同窓会誌『稲穂』編集会議後の歓談の中で話です。編集の中心メンバーで歴史家の牧内雪彦さん(中47・高1回)が、「東京には江戸や明治から続く飯田・下伊那にゆかりのある場所が何か所もある。そういったところを歩いてみて、『稲穂』に掲載するという企画はどうか」ということを提案されました。「その気になれば、いくつも飯田や下伊那ゆかりの場所を案内できるのだけれどね」との話に、「それは面白いですね」と衆議一決し、早速、牧内さんを中心に企画を考えることになりました。

私も提案できればよいのだけれど、歴史好きにもかかわらず、さすがに江戸や明治大正の頃の飯田との繋がりはあまり知りません。東京には親戚も多く、昔、両親が住んでいた世田谷や鶯谷などへは、子どもの頃から訪ねていましたが、親戚のいとこたちの東京弁が何となく面映い思い出があるばかり。保育園の頃、母に連れられて上京した千歳烏山の書店で買ったもらった絵入り本の『宝島』の思い出が残っているくらいでした。

そこでヒントになったのが、好きな小説家、乙川優三郎の『生きる』という時代小説集です。その中に「安穩河原」という一編がありました。江戸時代の話で、ストーリーも面白かったのですが、興味を惹かれたのが、舞台とされている信州の小藩の描写です。断定されてはいませんが、信濃の飯田藩ではないだろうかという件りがありました。また藩の江戸屋敷の場所が下谷竹町とも描かれていました。今の秋葉原駅や御徒町駅などに近い場所です。その辺の歴史はよく知りませんが、興味を惹かれ、早速、江戸時代の古地図帳を

購入して調べてみました。やはり、飯田藩上屋敷が下谷竹町に存在していたのです。

私は以前、秋葉原の会社に勤めていたことがあり、少しばかり土地鑑もありました。これは第1回の歩こう会の舞台にふさわしいと考え、早速、試しに現地を見に行ってみて、頭を抱えてしまいました。何も無かったからです。今でこそ、あちらこちら歩いてみて、昔の屋敷跡や遺構が残っている方が珍しいことはわかっていますが、当時探



●しもじま・あきら  
飯田市箕瀬町出身。高校では天文班。昼も夜も屋上の部室で過ごす。立命館大学を中退し上京、印刷会社に入る。その関係で「稲穂」創刊時に、同期の清水茂則君に誘われ参加し、現在に至る。趣味は週末農園。

## 「飯田ゆかりの地を歩こう会」の記録

- 第1回 2011 (H23) 年5月22日 (日)  
飯田藩堀家上屋敷から江戸城へ  
秋葉原駅―下谷―飯田藩堀家上屋敷跡―湯島聖堂―江戸城―有楽町
- 第2回 2011 (H23) 年10月23日 (日)  
飯田ゆかりの先人の足跡を訪ねて①  
上野駅―上野恩賜公園―東京芸術大学―谷中霊園―根津神社―東京大学(太宰春台、田中芳男、柳田直平、今村清之助、繁三)
- 第3回 2012 (H24) 年5月12日 (土)  
泉岳寺から飯田藩堀家下屋敷跡、堀家菩提寺へ  
品川駅―泉岳寺―細川家下屋敷(赤塚源蔵)―飯田藩堀家下屋敷跡―東江寺―祥雲寺(堀家菩提寺)―恵比寿
- 第4回 2012 (H24) 年10月27日 (土)  
飯田ゆかりの先人の足跡を訪ねて②  
目白駅―永青文庫―野間美術館―早稲田大学演劇博物館―菱田春草、横山大観、坪内逍遙、日夏耿之介、河竹繁俊)
- 第5回 2013 (H25) 年5月26日 (日)  
江戸から現代まで、街道をたどり飯田ゆかりの地へ  
原宿駅―明治神宮の杜―代々木―菱田春草居宅跡と平田神社―甲州街道から青梅街道寺町上高田周辺ゆかりの地へ(河)
- 第6回 2013 (H25) 年10月27日 (日)  
飯田ゆかりの先人の足跡を訪ねて③  
千駄ヶ谷駅―青山霊園(日下部鳴鶴、安東貞美、田中義廉、潮田千勢子、島村洋二郎)―新国立美術館―六本木―麻布から再び白金祥雲寺(堀家、石澤謙吾墓地)―恵比寿
- 第7回 2014 (H26) 年5月11日 (日)  
江戸から近代へ飯田ゆかりの先人の足跡を訪ねて④  
田端駅―文士村跡から動坂一木駒込の徳源禅院―吉祥寺―六義園―駒込から旧古河庭園 柴井霊園(郷土の先人たち)―東鴨(桜井蕉雨、西郷孤月、岡倉天心)
- 第8回 2014 (H26) 年10月18日 (土)  
菱田春草生誕140年記念大回顧展スベシャル  
東京駅―丸の内北口から大手門―皇居東御苑―江戸城本丸跡―天守台跡―北桔梗門を通して東京国立近代美術館―菱田春草生誕140年記念大回顧展―駿河台(今村力三郎)
- 第9回 2015 (H27) 年5月18日 (土)  
下町に残る飯田ゆかりの地を訪ねて  
両国駅―回向院―本所松坂町公園旧田吉良邸跡―要津寺―大島参太の碑―勝海舟・葛飾北斎ゆかりの地―河竹黙阿弥終焉の地―旧安田庭園 震災記念堂 鳥越神社―下谷―飯田藩堀家上屋敷跡再訪
- 第10回 2015 (H27) 年10月11日 (日)  
もうひとつの飯田藩 脇坂家屋敷跡から赤穂浪士の道へ  
新橋駅―汐留飯田藩脇坂家屋敷跡―浜離宮恩賜公園―旧新橋停車場―討入り後に赤穂浪士がたどった道を通り浅野内匠頭切腹の地―江戸城外堀跡―金刀比羅宮
- 第11回 2016 (H28) 年5月15日 (日)  
武蔵野を歩く①  
吉祥寺駅―成蹊大学―信陽舎(学生寮、創立には飯田人が貢献)―小金井公園―江戸東京たてもの園
- 第12回 2016 (H28) 年10月30日 (日)  
浅草隅田川界隈を歩く  
上野駅―浅草海禅寺(近藤家田菩提寺)―合羽橋―仲見世

し当てた飯田藩上屋敷跡は、昭和通りと蔵前通りの交差するあたりの、ビル街からやや離れた下町によくある雑居ビルの街並みでした。

特に土日は人通りも少ないうえ、都会のやすらぎになるような樹木も公園も無かったです。ただ、少し離れたところには、江戸時代からの神社仏閣等が多々ありました。下谷神社や鳥越神社、神田明神などです。少し足を延ばせば江戸城までも歩いて行ける距離です。

「そっこだ！ 旧飯田藩上屋敷跡と、いくつかの名所旧跡を組み合せれば何とかなるのではないか!」よく見ると、購入した古地図帳と照らし合せたあたりに建つ雑居ビルの2階窓には、「コンゴ共和国」の公館らしき看板が見えており、誇らしげに国旗を掲げていたのです。敷地の一角の貸しビルとはいえ、飯田藩上屋敷跡が外国の外交関係の建物になっていたことは、とても興味深いものに思えました。

そこで、秋葉原駅に集合して歩くという第1回のコースを設定企画し、翌月の編集会議に提案したところ、牧内さんや編集委員の皆さんに了承されました。

奇しくも、その年の3月11日、三陸沖を震源とするM9.0の地震が発生しました。巨大津波が東北地方沿岸部を襲った年だからこそ、その災厄を乗り越えるべく歴史を学び体験しようではないかと第1回「飯田ゆかりの地を歩こう会」が始まったのです。記念すべき2011年5月22日のことでした。

―浅草寺参拝同境内―弁土塚河竹黙阿弥旧宅跡―東京スカイツリー駅―東向島駅―秋の向島百花園―木母寺(天下の糸平碑)

第13回 2017 (H29) 年5月20日(土)  
武蔵野を歩く②

新宿駅―京王線武蔵野台―本願寺―府中の森公園―明治大学内海―島岡ボールパーク―多磨霊園

第14回 2017 (H29) 年10月21日(土)

飯田下伊那から上伊那へかけての先人の墓を参る

雑司ヶ谷霊園―護国寺(夏日漱石、金田一京助、森田草平、伊澤修二)―椿山荘庭園―永青文庫―池袋東公園平和の碑

第15回 2018 (H30) 年5月12日(土)

横山大観展と法政大学飯田下伊那文庫を訪ねる

東京駅―大手町将門塚―皇居参観―北詰橋門から東京近代美術館―横山大観展―科学技術館レストラン―東京国立近代美術館工芸館「明治の名工展」―法政大学飯田下伊那文庫

第16回 2018 (H30) 年10月27日(土)

青山霊園から六本木界隈を経て白金東江寺・祥雲寺再訪

千駄ヶ谷駅―建設中の新国立競技場(設計は隈研吾)―青山墓苑(平田曉夫)―青山霊園(日下部鳴鶴、田中義廉、島村洋二郎、安東貞美、潮田千勢子)―国立新美術館―東江寺・祥雲寺墓地(堀家代々、石澤謹吾)

第17回 2019 (R1) 年5月12日(日)

飯田ゆかりの地を訪ねて(横浜編)

桜木町駅―野毛山公園―佐久間象山顕彰碑―美空ひばりの像―日本初の無橋脚鉄製トラス橋―富貴楼跡―赤レンガ倉庫―横浜開港資料館―シルク博物館―山下公園―中華街

第18回 2019 (R1) 年10月26日(土)

薩摩藩上屋敷ゆかりの酒造「若松屋」(飯田出身)から幕末を偲ぶ

浜松町―芝公園―芝天神宮―増上寺―慶應大学構内―白金高輪―飯田藩下屋敷跡―泉岳寺(赤垣源藏)―三田東京港醸造若松屋